

※字数指定のある問いでは、特にことわりのない限り、句読点等の符号も一字分と数えます。

□ 次のA～Eの各文中のカタカナを、漢字に直していいいに書きなさい。

A 彼女は、この学校の中でもひとときわ目立つソングだ。

B 周囲の手助けによって、無事にキュウジヨが終わった。

C クラブ活動では、下級生のシドウを熱心に行っていた。

D 秋の学芸会にかかったヒヨウをクラスごとに回収した。

E 彼のウラオモテのない性格は多くの人に好かれている。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

(文章中の※は、終わりに注があります。また、文章中の①・②・③は全体を大きく三つに分けた段落のはじめのか所を表しています。設問の都合で、問題文の表記を一部書き改めてあります。)

まえがきでも触れたように、思春期には、様々な身体の悩みが生じます。

① 身体の急速な成長に心が追いつかないことがその原因のひとつで、心と身体の不一致に悩むことが多い時期なのです。大人になるためには、自分の身体に心をあわせていかなければなりません。

身体には、他人に見られる外見としての身体だけでなく、自身の身体をとらえる「身体感覚」という、2つの側面があります。心と身体的不一致に悩むのが、後者の身体感覚です。この不一致のためにおこる不思議な現象は多くあり、それは思春期に多くみられます。まず、こうした身体をめぐる不思議な現象について、最近の脳科学の知見から考えてみましょう。

② 「金縛り」にあったことはありませんか？ 金縛りは、寝入りばなにおきるのが特徴です。うとうとと眠りに落ちる瞬間にふと目が覚めて、身体を動かそうにもまったく動かないのです。

筆者の場合は30歳くらいまで、夜中の1時以降に寝ると、必ず金縛りにあうという決まりのようなものがありました。今でも明け方近くに眠ろうとすると、時々おこります。一番ひどかった中高生の頃は、コタツの中で少しだけ居眠りしていても、昼寝をしていても、うっかり油断すると金縛りになる、という感じでした。

金縛りにあっているときには、動かそうにも身体を動かすことができません。動けないだけではなく、子どもたちのさわぎ声が聞こえることもあります。怖いから目をつぶっているはずなのに、周りの風景が見えてしまうこともあります。いつもと変わらない部屋の様子が見えるのですが、そこに通常ではおこりえないことがおきるのです。

a、開いているはずのドアが、誰もいないはずなのに突然勝手に閉まる。電話機の上に、手だけがのっている。身体から切り取ったように手だけがあるのです。それは、まるでホラー映画の一場面のようでした。

実際、金縛りは「霊のしわざ」といわれることもありましたが、「目を開けるとお腹の上に見知らぬ女性がのっかって、こちらをのぞきこんでいた」とか「お侍さんがのっかっていた」とか、そんな体験もあるそうです。

b 金縛りは、科学的にも解明されています。眠っているときの脳波を計測した研究によって、睡眠の際におき

る生理的な現象であることがわかったのです。金縛りは、寝入りばなにいきなり深い睡眠に入るときにおきるというのです。睡眠は、ふつうは徐々に深い睡眠へと移っていきます。ところが金縛りがおきるときは、いきなり深い睡眠に入ってしまうます。身体は寝ている状態なのに頭はさめている、c、身体が脳の言うことをきかない状態になってしまうのです。^{※6} ストレスや夜ふかしなど、疲れていたり、ふだんとは違う時間に眠ったりと、睡眠のリズムが狂うことによって、金縛りはおきやすくなるといわれています。d 金縛りは、脳と身体のアンバランスによって生じる現象だったのです。筆者の場合も、1時以降に寝ると金縛りがおきやすかったということは、睡眠リズムの支障に関係があったのでしよう。横向きに寝たときの方がおきにくかったので、横向きで眠る習慣がつかまりました。

§ § §

③じつは、私をはじめ体験した金縛りには続きがありました。身体が動かないと思ったとたん、身体が宙に浮いたのです。身体がすうつと天井のすぐ下まで浮かびあがり、ベッドの足元のあたりを見下ろせたのをおぼえています。気を抜くと天井や屋根を越えて空まで上がっていきそう、「戻って！」と心の中で強くさげんだのでした。

それは中学2年生の頃のできごとでした。テスト勉強も厳しくなって、夜ふかしが続いた時期のことです。しかも、その体験は2晩続いたのです。当時は恐怖以外のなものでもなく、幼い頃に目にした海外のホラー映画の場面も思い出されませんでした。

その昔、「エクソシスト」というオカルト映画の金字塔ともいわれる作品が上映されました。1973年にアメリカで興行成績1位となりアカデミー賞も受賞し、日本の試写会では有名人が失神したと噂になったのをおぼえています。

この映画は、少女にとりついた悪魔と神父との戦いを描いたものでした。悪魔にとりつかれて操られた少女の身体がベッドの上で何度も浮かびあがったり、寝たままの体勢で無理やり何度もジャンプさせられたりと、思いおこすとあまりにも大げさでギャグのようなのですが、自分の身体が浮いたとき、まずこのシーンを連想しました。

しかし、当然ながら、実際に自分の身体が宙に浮かびあがったわけではありません。ほんとうの身体は寝たまま、自分では、浮かびあがったようにありありと感じていたので、

c後述しますが、こうした経験を科学的に調査しようと試みた研究者がいます。そこから、これらの現象が霊ではなくて、脳のしわざであることがわかったのです。

自分の身体から抜け出す感覚は「体外離脱」とよばれ、それほどめずらしい体験ではないこともわかりました。体外離脱に

関して1974年のアメリカと1984年のイギリスでの^{※8}郵便調査の報告をまとめた意識研究者のトーマス・メッツインガーによると、体外離脱の経験者は人口の8〜15%、学生では25%にものぼるそうです。4人に1人は経験したことがあ
る計算になります。体外離脱は思春期に多い事象^{じしやう}であることが、この調査からもわかります。

(山口 真美 著『こころと身体しんりの心理学がく』より)

- ※1 思春期……人の身体からだが発育してだんだん大人になっていく12歳〜17歳のころ。
- ※2 知見……よく見たり考えたりして得られた知識や意見。
- ※3 金縛り……眠っているときに、短い時間だが意識がある中で、身体を自由に動かせなくなる現象^{げんしやう}。
- ※4 お侍さん……刀や槍などの武器をあやつり、戦うことを仕事にする「武士」の別の呼び名。
- ※5 脳波……脳の活動に伴って発生する波のような信号。頭皮の上から計ることができる。
- ※6 ストレス……外からの様々な刺激によって起こる、あまり好ましくない緊張状態。
- ※7 金字塔……後の時代まで長くたえ続けられる、すばらしい業績や仕事などをたとえる言葉。
- ※8 郵便調査……郵便を利用して行うアンケート調査。

問一 ~~~~~ A～Cの言葉の文章中の意味として最も適当なものを、それぞれ次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

A 「おこりえない」

ア おこらない イ おこっていない ウ おこることがめずらしい エ おこることがゆるされない

B 「恐怖以外のなにものでもなく」

ア 恐怖以外のなにかわからず イ 恐怖以外のなにかであって

ウ 恐怖そのものであって エ 恐怖以上のなにかわからず

C 「後述しますが」

ア 予言しておきますが イ 後で説明しますが ウ 詳しく述べますが エ 後にわかったのですが

問二 ～ に入る言葉として最も適当なものを、それぞれ次のア～クの中から選び、記号で答えなさい。

い。

ア さらに イ しかし ウ そして エ そのため

オ たとえば カ つまり キ なぜなら ク また

問三 文章中で取り上げられている「金縛り」という現象の説明として適当ではないものを、次のア～オの中からすべて選び、記号で答えなさい。

ア 金縛りは、眠りに入ろうとした瞬間に、いきなり鼻をつままれるような感覚におそわれる現象である。

イ 金縛りは、身体は動かせないのに、人の声が聞こえてきたり、周りの風景が見えたりする現象である。

ウ 金縛りは、「霊のしわざ」とも考えられ、ねているお腹の上に、昔の人が大勢のつてくる現象である。

エ 金縛りは、いきなり深い睡眠に入ってしまうことで、身体が脳の言うことをきかなくなる現象である。

オ 金縛りは、疲れや生活の乱れによって睡眠のリズムが狂い、おきやすくなるともいわれる現象である。

問四 「金縛り」という現象の原因を説明している語句を、1の段落から八字で、3の段落から五字で、それぞれ抜き出して答えなさい。

問五 次の1〜5の各文について、文章の内容に合っているものは○、合っていないものは×として、それぞれ記号で答えなさい。ただし、すべて同じ記号を答えてはいけません。

- 1 人間の身体には、他人から見える外見とは別に、自分で自分の身体をとらえた「身体感覚」という側面がある。
- 2 筆者は中高生の頃には、つねに金縛りに悩まされていたが、30歳を過ぎてからはすっかり慣れて平気になった。
- 3 筆者は金縛りに悩む人に、規則正しく生活することと横向きに寝ることで、それを予防するようすすめている。
- 4 金縛りの時オカルト映画のように宙に浮いたと思うことがあるが、そう感じるだけで実際身体は浮いていない。
- 5 「体外離脱」は思春期に特有の現象で、人口全体の8〜15%しか経験できない、非常にめずらしい体験である。

問六 【作文問題】次の①と②のいずれか一つについて、わかりやすく(例を入れるなど)作文して私たちに伝えてください。
選択した①か②いずれかの番号も、必ず書いてください。採点は、作文の内容と表現(文字やことばの正しさ)の両方について、しっかりと見るつもりです。

- ①自分が体験してはじめは不思議だと思っただが、後でその原因がわかった現象(これは「事件」でもよい)について。
- ②多くの人が不思議と思っっているが、実はその原因ははっきりわかっている現象について。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

(問題文中の※は、終わりに注があります。また、問題文の一部を書き改めてあります。)

アニメーション映画でも有名な『魔女の宅急便』の主人公キキは、ほうきに乗って荷物を運ぶ宅急便屋さんを開業しました。そして大人になって双子のお母さんになりました。子どもたちの名前は、女の子のニニと男の子のトト。魔女のしきたりでは、十三歳になった女の子は生まれ育った町を離れ、独り立ちをして新しい生活を始めることになっています。ニニも、もうすぐ旅立ちの日を迎えようとしています。しかし、ニニはまだ、キキのような魔女になる覚悟ができていないようです。ある日、キキの留守の間に宅急便の依頼の電話がありました。お客さんはずいぶんあせっているようです。ニニは仕方なく黒猫のプブとともにお客さんの家に向かってほうきで飛んでいったのですが……。

「わたし、魔女です。電話でたのまれて……」

ニニはいいかけて、口をつぐんでしまいました。ふたりの目は、とつてもがっかりしているようでした。

「まだ、子どもじゃないか」

男のほうに汗と泥にまみれた顔でつぶやきました。

「でも、あんた…おねがいしくちや」

女の人は、泣いている子を揺すり上げながら、いいました。この人もがっかりしている様子をかくしません。

「大丈夫ですよね」

をおすように、ニニを見ました。

「予定日過ぎていなのに、生まれないんです。はじめてのお産なんです。苦しんで、苦しんで。わたしたちにとっては、たいせつな馬。全財産なんです」

ニニは急いでシーツをひろげました。

「もっと大きなものもってきます」

女の人は急いで、走っていくと、魚をとる網をひきずってきました。

「これをかごにしたら」

女の人と、男の人は急いで四隅よすみにロープを通しました。

「大丈夫ですか、これで……」

ニニは、大丈夫もなにも、怖こわくって、うなずくこともできずに、A ふるえています。
ふたりは力いっぱい馬をあげまして、網の上まで歩かせました。ニニはもってきたシートを馬の上にかかけました。
「おねがいです。なんとか、コリコ町立動物園のママ先生のところまで運んでください」

「はい」

ニニはふるえながら、うなずきました。でも、馬はニニの十倍ほど大きいのです。はたしてもちあがるでしょうか。

ニニはロープのはじをほうきの柄えに通すと、またがりました。足で地面を思いきりけると、荷物はずっとひっぱられ、おや、まあ、ありがたいことに、浮うき上がりました。ほうきの柄がいまにも折れそうになっています。ブブがあわてて馬の背せなか中に飛びのります。ほうきはよろよろと、すこしずつ地上をはなれていきます。

落ちてきたら受けとめるつもりでしょうか、馬主のふたりは両手を空中にささげて、泣なきそうな顔をしています。①ニニはそれを
見えて、力を入れて口をぎゅつとむすびました。

おひさまは元気に光っています。時計を見ると、約束やくそくの時間まで、あと三十分はあります。このままいけば、すこしの遅おくれで、すみそです。ニニはほっとして、息をつき、馬の様子を気にしながら、方向を変かえました。そのとたんニニは

B 体をこわばらせました。右後方はるかむこうから、ものすごく黒い雲が、まるで悪魔あくまのしつぽのようにつたくりながらこつちにむかってきます。

「やばい！」

ブブがさげびました。「もどつたほうがいい」

「まだ遠くだから、あれよりはやく飛べば。前をすりぬければ……」

ニニはぶらんぶらん落ち着きなく揺れる馬にあわてながら、「このまま、いつてみる！ いかなくちゃ」とさげびました。
そして、高いところをめざし、足を激はげしく動はかしました。②胸むねはもうはれつしそくにどきどき鳴っています。

「大丈夫、大丈夫よ。約束には、きつと間に合わせてみせる」と、ニニは自分にいつづけました。

(でも、なぜ、なぜ、さつきまであんなにしずかだったのに)

黒い雲はみるみるひろがってきます。先端せんたんが急きんにのびて、巨大きょだいな舌したのように、ニニをからめとろうとします。③すりぬけるな

んで、とても、とても。

風も強くなってきました。ニニたちはたちまち真つ黒な雲にまきこまれていきました。ぐらんぐらんとつるした馬が揺れます。あたりの闇を切り裂くように、※1 いなひかり稲光が走ります。つぎから、つぎへ。

今年※2 こうみほうすかせは来なかつたと言っていた、海坊主風がやってきたのです。それも例年※3 れいねんになく、大きいのが。④

風にまかれ、渦巻き※4 うずまのように回転しながら、ニニは落ちはじめました。

「ニニ、下、下！」

後ろでブのさけび声が出ます。見ると、目のすぐ下に、水面がひろがっています。気がつかないうちに、方角を見失い、ニニはすごい速度で落ちていたのです。横殴りの雨のなか、あわてて周囲を見回すと、小さな島がかすんで見えます。ニニは力いっぱい足をこいで、その島をめざして、おりていきました。

山のような波が、ドードーっと小さな島の上をこえていきます。このままではたちまちみんな流されてしまうでしょう。

「おねがい、立って！」

ニニは馬にどなりました。「歩いてよ！」その剣幕におそれをなしたのか、馬はよろよろと立ち上がり、歩きだしました。

たたきつけるような雨と波のなか、あたりをすかしてみると、屋根のようにすこし出っ張っている岩を見つけました。ニニは馬の手綱をひっぱって、そこにおしこめました。馬は C ひざをつくと、ちぎれるような荒い息をはきつづけています。ニニはその体にしがみついて、「大丈夫、大丈夫、守ってあげるね」と声をからさんばかりにいいながら、でも守ってほしいのは自分もだと思っていました。馬の体は熱く、それがふるえているニニにも伝わってきて、すこし勇気がわいてきました。助けるはずの馬に、ニニは助けられているような気持ちでした。そばにちごこまってブブもいます。ありがたいことにほうきはこわれていません。あ※5の ※6 だいいじな洋服のはいった袋も、ぬれてはいても、そこにありました。命もなくしていません。

嵐はますます激しく、海の底がわれたかと思うほど、恐ろしい音をたてています。この海坊主風は、いつも一晩はつづきます。このままじつと通りすぎるのを、耐えなければなりません。ニニは気が狂いそうでした。馬はますます苦しそうな息をはき、おなかもぐらぐらと、揺れています。あたりは夜のように暗く、波がひいたときに、ぼんやりとあたりが見えるだけです。ニニは手で馬のおなかをさすりました。そのとき、ニニのなかに ※7 ノノちゃんのおなかをさすっているキキの姿が浮かんできました。魔女の手は力があるのよ。さすってあげると、丈夫な赤ちゃんが生まれるのよ。キキがそういっていました。

ニニは腕で涙をふきながら、また力を込めて、馬のおなかをさすりました。

「安心していいよ。わたし、魔女だから」

ニニはしゃくり上げながら、馬の耳にささやきました。

ふつと馬の動きがとまりました。ニニはあわてて、首にかじりつきました。馬が大きく息をはいたかと思うと、体からすりつとかたまりが出てきました。暗いなかで光っています。生まれたのです。ニニはあわてて、袋をあげ、あのだいいじなドレスをひっぱりだして、赤ちゃんの体をおおうと、力を入れてふきました。

雨も、風も、いっこうにおさまりそうにありません。

しばらくしてまた、馬が大きくふるえ、息をきました。見ると、もう一頭生まれているではありませんか。ふたごです。波のしぶきの光の中に、二頭の赤ちゃん馬がよこたわっています。ニニは、洋服を布のようににぎりしめ、細かくふるえる体を、かわりばんこに、D さすりつづけました。お母さん馬も舌で、赤ちゃん馬をなめています。やがて、赤ちゃんは細い足でよろよろと立ち上がりました。ニニはふーっと気が遠くなりました。

(角野 栄子 作 『魔女の宅急便その6―それぞれの旅立ち』より)

※1 稲光 …… かみなりとともに光るいなづまのこと。

※2 海坊主風 …… 海に住む妖怪の名前をつけられた激しい風のこと。

※3 だいいじな洋服 …… ニニが旅立ちの日に着ようと思つて用意していたドレス。

※4 ノノちゃん …… ニニの母親のキキが、かつてひとり立ちした時に部屋を借りていた、パン屋さんの夫婦の

間に生まれた女の子。

問一 にあてはまる漢字一字の言葉を考えて答えなさい。

問二 A D に入れるのに最も適当な語を、それぞれ次のア～クの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア ぐらりと イ わなわなと ウ のそりと エ ぴたっと
オ ふわふわと カ ごしごしと キ ぎくりつと ク ぶりぶりと

問三 _____ ①「ニニはそれを見て、力を入れて口をぎゅつとむすびました」とありますが、なぜニニはこのようにしたのでしょうか。その理由を四十字以内で説明しなさい。

問四 _____ ②「胸はもうはれつしそうにどきどき鳴っています」とありますが、なぜですか。この時のニニの気持ちを説明したものととして最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ほうきにぶらさがっている馬が重いだけでなく、激しく揺れているので落ちないかどうかを心配する気持ち。
イ 黒い雨雲がいきおいを増してこちらの方向に向かってくる様子を発見して、おそろしくてたまらない気持ち。
ウ 雨が降ってくる前に馬を届けようと思つて飛ばうとしたが、ちゃんとできるかわからず緊張している気持ち。
エ 予定通りに行こうと決めたものの、ブブの言葉通りにもどつた方がよかつたのではないかと後悔する気持ち。

問五 _____ ③「すりぬけるなんて、とても、とても」とありますが、この一文には「とても、とても」の後に省略された言葉があります。その言葉を考えて答えなさい。

問六 _____ ④「大きいのが」の述部（二つ以上の文節で述語の役割をするもの）にあたる言葉を文章中から抜き出して答えなさい。

問七 ————— ⑤ 「すこし勇氣ゆうきがわいてきました」とありますが、この時のニニの気持ちの説明として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 馬がニニのびしょびしょにぬれてしまった体をあたためてくれたので、絶対ぜったいにこの馬を助けようと思った。
- イ ふるえるほど体がぬれているのに自分もブブも馬もみな元気でいて、荷物も安全であることにほっとした。
- ウ 冷たい雨の中で心細いところに馬のぬくもりを感じて、一緒いっしょにこの場を切り抜けようと思うようになった。
- エ 自分ひとりで仕事をしなくてはならず心細く感じていたが、馬がとりにいてくれることに安心した。

問八 ————— ⑥ 「ニニは腕うでで涙なみだをふきながら、また力を込めて、馬のお腹なかをさすりました」とありますが、このときのニニの気持ちを、文章の流れにそって説明しなさい。

《解答》

- 一 A 存在 B 救助 C 指導 D 費用 E 裏表

□二

問一 A ア B ウ C エ

問二 a オ b イ c エ d カ

問三 ア・ウ ※完答

問四 1 [1] 心と身体の不一致 3 [3] 脳のしわざ

問五 1 ○ 2 × 3 × 4 ○ 5 ×

問六 解答は省略

□三

問一 念

問二 A イ B キ C ア D カ

問三 馬主のふたりが心配そうにしているので、彼らのためにも安全に運ぼうと決心したから。

問四 ウ

問五 できません。

問六 やってきたのです

問七 ウ

問八 嵐の恐ろしさに加え、馬が苦しそうな様子を見て心細くなっていたが、魔女の手が持つ力のことを思い出し、

全力を尽くして馬を元気づけたいと思う気持ち。